

1. レジ袋削減等への取組

(1) ごみ減量と資源再利用推進会議について

「市民一人ひとりが、ごみ問題を自らの生活環境を守る自らの問題として、正しく認識し“ふるさと都市大津”の創造にふさわしい気風を育てていくこと」を目的として、昭和 56 年 5 月に「ごみ減量と資源再利用推進会議」が市民運動として発足した。

この推進会議は、各地域や職場からの推薦者、各種団体からの推薦者及びその趣旨に賛同する市民で構成され、会長・副会長・事務局長・事務局次長及び幹事の役員のもと、4 つの常設部会（企画総務部会、ごみ減量推進部会、資源再利用推進部会、流通部門対策部会）と、必要に応じて設置することができる特別部会（女性懇話会）とが設置されている。

運動の具体的内容は、ごみの分別（燃やせるごみ、燃やせないごみ、かん、びん、ペットボトル、プラ容器、大型ごみ）の推進や徹底、資源化運動の呼びかけなどで、これまでに指定透明袋の導入や新たな分別収集開始時の協力・各種イベントの開催・「ノーポイ運動」における啓発等の実践活動を行ってきた。

本市のごみ減量及びレジ袋削減に関する取組は、この会議と密接な連携を取りながら、30 年以上にわたり地道な活動を積み重ねてきている。

(2) 平成 23 年度の実績

①ごみ減量と資源再利用推進会議大会の開催

市の担当職員から市におけるごみの現況や一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の概要、ごみ減量や資源化施策について、また民間講師から家庭でできるごみの削減方法について講演。昨年度は参加記念品にマイはしを提供して啓発を行った。

②出前講座

地域の団体からの申し出により随時開催。「くらしとごみ」をテーマにごみの減量方法や資源化の推進について説明。

③リサイクルフェア

ごみ減量と資源再利用推進会議と共催して、大型商業施設で啓発イベントを開催。

④マイバッグ持参運動

ごみ減量資源再利用推進会議の事業として、市内4ヶ所の商業施設の店頭で実施（啓発とアンケート）。

⑤広報おおつへの啓発記事掲載

⑥ホームページへの啓発記事掲載

⑦「買い物ごみ減量推進フォーラムしが」におけるキャンペーン（店頭啓発）

⑧庁内ごみ発生抑制のためのマイはし運動の実施

（3）平成24年度の計画

①これまでの運動の継続及び拡充

②過剰包装お断り運動の実施

（4）滋賀県容器包装削減宣言（平成23年1月4日）への参画

<http://www.pref.shiga.jp/d/haikibutsu/gomizero/sengensiki.html>

2. レジ袋削減への取組に係る自身の評価

平成23年11月に、ごみ減量と資源再利用推進会議と市では、市内4ヶ所で「マイバッグ（買い物袋）持参運動」を実施し、レジ袋削減のためのマイバッグ持参の呼び掛けと、マイバッグの持参状況のアンケート調査を行った。

千人の方に回答いただき、マイバッグを持参されている方は695人と約7割だった。女性の多くがマイバッグを持参されている一方で男性の持参率が低く、さらに10から20代の若い方の持参率が低くなっている。

全体として、市民の意識と持参率は高まってきていると言えるものの、これで啓発できたというように、現状に満足しているわけではない。しかしながら、リデュース（発生抑制）の象徴たるレジ袋の削減運動をすることは、実際の削減効果もさることながら、ごみを減らしましょうという市民に対するメッセージやPRとなり、繰り返し行っていくことが重要であると考えている。

マイバッグ持参率

年代	全体	男性	女性
10代	43.8%	42.3%	44.7%
20代	53.1%	35.3%	59.6%
30代	70.3%	48.1%	75.4%
40代	62.7%	35.3%	69.2%
50代	81.3%	70.4%	83.5%
60代以上	74.4%	50.5%	82.7%
合計	69.5%	48.1%	75.9%

3. レジ袋削減から新たな取組に展開した経緯、新たな取組に展開できた要因

本市においては、一般廃棄物処理の基本となる「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を策定し、平成 32 年度を目標年度として、ごみの排出量（資源ごみを除く）を 20%削減するよう、市民、事業者、行政が協働してごみ減量と資源化に取り組んでいる。また、事業者である市役所としては、「環境にやさしい大津市役所率先実行計画」（以下「実行計画」と示す。）を策定し、平成 27 年度を目標年度として、市施設から排出される燃やせるごみの量を 1.2%削減することを目標に、「実行計画」に基づき従来からごみ減量と資源化に努めている。この「実行計画」にも掲げられている「おはしを持参する取り組み」所謂「マイはし運動」を展開することで、更なるごみ減量化を推進していくこととした。

レジ袋削減の取組は、ごみ減量化の啓発に向けた象徴的な取組として進めてきたが、長い間継続しているため、一部の意識の高い方々には倦怠感が生じている面もある。そこで、レジ袋削減についてもいろいろな工夫を凝らしてきたが、新たな展開として、市役所が率先してマイはし運動に取り組むこととし、市民・事業者に取組の輪を広げていきたいと考えている。

また、更なる新たな取組として「過剰包装お断り運動」を計画している。

4. 新たな取組の詳細

（1）マイはし運動

①職員の取組

- ・マイ箸を持参するようにする。
- ・業者やコンビニエンスストア等で弁当を購入する時、割箸を受け取らない。

②職員互助会食堂の取組

- ・テーブルの割箸を段階的に減らすようにする。
- ・最終的には、割箸は必要な方のみ料理受取口で渡すようにする。

③今後の展開

- ・本庁舎から取組を開始し、庁外職場であってもできる所から取り組む。
- ・運動のノウハウを蓄積し、市民、事業者における取組への展開を図る。

(2) 過剰包装お断り運動

リデュース（発生抑制）の取組として、簡易な包装を促進するため、同運動を計画している。市内には、百貨店をはじめ大型商業施設が多数存在し、ごみ減量と資源再利用推進会議の会員でもあることから、同会議を中心に、市民、事業者、市が協働して、たとえば中元・歳暮時期を狙って過剰包装を辞退する運動として、普及啓発、広報を進めていきたいと考えている。